

(一社)住まいの屋根換気壁通気研究会を発足

工務店や設計事務所と協働し住宅外皮の耐久性向上を促す

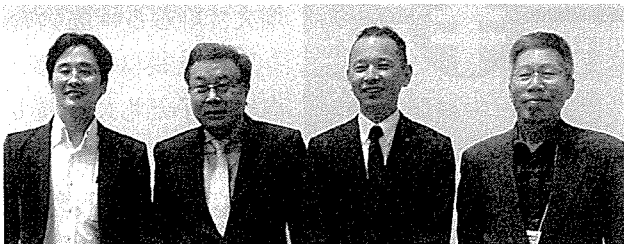
換気棟や屋根・壁の役物を製造販売するハウゼコは、(一社)住まいの屋根換気壁通気研究会を創設した。工務店や設計事務所、さらには学識経験者と協働し、住宅外皮の耐久性向上に向けた研究などを進めていく方針だ。

近年、住宅の漏水事故リスクは上昇する傾向にある。その理由のひとつがシンプルな箱型住宅の増加。こうした住宅の多くは軒の出が浅く、雨水が建物に直接当たるため漏水リスクも高い。

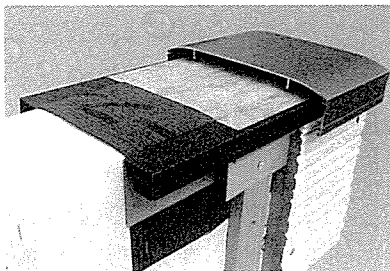
住宅の高気密化の進展により、壁体内に侵入した水分が外部に排出され難いという問題もある。壁体内に水分が留まることで、木材などの耐久性を著しく低下させてしまう。

一方、湿気や水分が溜りやすいという問題を解消するために、壁体内に通気層を設ける工法が普及してきている。壁体内の通気を促すことで、絶えず乾燥状態を保とうというわけだ。しかし、通気工法を採用することで新たな問題も発生する。外気を給排気する部分の雨仕舞を間違えると、この部分から雨水が侵入する心配があるのだ。

ハウゼコは、こうした問題を解決するための換気棟や屋根・壁の役物を製造販売している。例えば、スピカは換気棟のための部材。外壁に通気層を設ける場合、棟部分に換気口を設ける場合がある。この時に重要になるのが、換気量を確保しな



左から松尾設計室の松尾代表取締役(独行)建築研究所の坂本理事長、ハウゼコの神戸社長、東海大学の石川名誉教授



2014年度のグッドデザイン賞を受賞した「アンタレスミニ」。バルコニーの笠木部分からの雨水侵入の防止と換気量の確保を両立

がら、いかに雨水の侵入を食い止めるか。スピカは、この相反する要求を同時に満たす部材。

また、アンタレスはバルコニーの笠木部分に用いる部材だ。バルコニーの立ち上がり部分の壁に通気工法を採用する場合、換気量を確保しながら、通気層内に雨水が侵入することを抑制しなくてはならない。加えて、笠木を施工する際に釘などで穴を開けてしまうと、そこから壁体内に雨水が侵入する恐れもある。アンタレスは、こうした問題を解決する部材。所定の施工方法で施工することで、笠木部分からの雨水侵入リスクを大幅に抑制できる。ハウゼコでは、アンタレスを小型化し、様々なバルコニーに対応できる「アンタレスミニ」を発売、2014年度のグッドデザイン賞も受賞している。

事例などをもとに対策を体系化

同社では、漏水事故などが増加する状況に歯止めをかけるために、新たに(一社)住まいの屋根換気壁通気研究会を設立した。設計事務所や工務店などを会員として、換気・通気による住宅外皮のさらなる耐久性向上を図っていきたい考えだ。同社の神戸陸史社長は、「設計事務者や工務店の方々は、漏水事故などに関する事例をよく知っており、一番困っていてもいる」と語っており、実際の事例などを参考にしながら、建物外皮の耐久性向上に取り組んでいく方針だ。また、特別顧問に(独行)建築研究所の坂本雄三理事長、顧問に東海大学の石川廣三名誉教授、近畿大学の岩前篤教授、専務理事に松尾設計室の松尾和也代表取締役が就任。学識経験者との連携も図りながら、活動を進めていく。